

追悼

植村慶一名誉教授を偲んで

(埼玉医大名誉教授・初代国際交流センター長) 野村 正彦

慶応義塾大学名誉教授・埼玉医科大学名誉教授の植村慶一先生が12月29日、82歳で逝去されました。大好きだったテニスを、80歳を過ぎても若者達と興じておられました。

健康は元気にテニスをやっているから大丈夫だよ、とのお言葉を伺っていただけに信じられません。

1959年 慶應義塾大学医学部を卒業されました。

1965年 ストラスブール大学に留学され、フランスへは塚田裕三教授門下では初めての事で、大学院生であった小生には植村先生の輝かしい今後の研究の発展を強く感じました。

1972年、東邦大学生理学助教授の時、新設される埼玉医大の第一生理学教授に赴任されました。37歳でした。

教養・基礎・臨床のそれぞれ2年間のカリキュラムを含め、教育の立案・企画作成をされ、新学期から実行され、最も若い教授であり、あらゆる面での御活躍をされた事は長く語り草でした。

そして、生理学の教育は熱く、檄を飛ばされての講義であり、生理学の実習はその日の課題をレポート作成まで課され、時に深夜まで及んだのは有名でした。

研究は、神経生理学、ミエリン形成に存在する脱髄疾患関連物質の探索を中心として神経化学を終生の研究テーマとされました。そして、これらの関連学会の理事長職を長く歴任されて、多くの学会をリードされて来ました。

1989年母校慶應義塾大学生理学の教授に就かれた後も、週一度の生理学教室の勉強会・研究発表会には欠かさず埼玉医大まで足をお運び頂き、教室員一同の御指導をして下さいました。

テニスをこよなく愛され、国際学会・国内の学会であれ、ラケットを手に学会の前後には、プレイする日程が必ず確保されていました。

このように、あらゆる面での御活躍御指導を頂き、まだまだ高所からの御指導を賜ることが多々あった中、植村先生、黄泉の世界は早すぎます。

先生の御冥福を心よりお祈り致します。